

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
			② 利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 9 利用者の思いや希望を十分に把握できるよう、日々の支援場面などさまざまな機会、方法によりコミュニケーションを行っている。 ■ 10 利用者の思いや希望を把握し、その内容を支援に活かしている。 ■ 11 利用者の尊厳に配慮した接し方や言葉づかいが徹底されている。 ■ 12 コミュニケーションの方法や支援について、検討・見直しが定期的に行われている。 ■ 13 話すことや意思表示が困難であるなど配慮が必要な利用者には、個別の方法でコミュニケーションを行っている。 ■ 14 利用者が話したいことを話せる機会をつくっている。 ■ 15 会話の不足している利用者には特に気を配り、日常生活の各場面でも話をしてもらえるようにしている。 	<p>○担当者が、ケアプランを作成しPCにて日々の状況や変化を細かく記録し、職員間で共有しています。記録に基づき改善や話し合いをしています。</p> <p>○年齢差の大きい若い職員が、生活に則した丁寧な言葉選びで接し、親しみのある話しやすい雰囲気作りを心掛けていました。</p> <p>○耳の遠い方には、ジェスチャーや身振り、小さなホワイトボードで筆談等、円滑な伝達への配慮をしていました。</p> <p>○会話不足の利用者には、可能な限り、一対一でゆっくりした時間を居室等で設けていました。</p>
		(2) 権利擁護	① 利用者の権利擁護に関する取組が徹底されている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 16 利用者の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。 ■ 17 利用者の権利擁護のための具体的な取組を利用者や家族に周知している。 ■ 18 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。 ■ 19 原則禁止される身体拘束を緊急やむを得ない場合に一時的に実施する際の具体的な手続と実施方法を明確に定め、職員に徹底している。 ■ 20 所管行政への虐待の届出・報告についての手順等を明確にしている。 ■ 21 権利擁護のための取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。 ■ 22 権利侵害が発生した場合に再発防止策等を検討し理解・実践する仕組みが明確化されている。 	<p>○入所契約書で利用者や家族に、施設運営規定で職員に、利用者の権利擁護についての記載が詳細になされ、周知、理解がされていました。</p> <p>○法人全体での研修がマニュアルに基づき定期的に行われ、各施設において職員に周知や検討する機会が設けられました。</p> <p>○身体拘束のマニュアル、虐待防止マニュアルがあり、手順が明示されていました。</p> <p>○職員と幹部側との、コミュニケーションがとれていて、利用者も含め、施設全体の風通しがよいと感じ取られました。今後も、利用者の権利擁護に関する意識向上に努めることを期待します。</p>
		<p>○利用者の尊重と権利擁護は、福祉施設・事業所の使命・役割の基本であり、虐待等の権利侵害を防止することは法令で必須とされる事項です。よって、取組の重要性に鑑み、取組が十分でない場合には、「c」評価とします。</p>				

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
	2 環境の整備	(1) 利用者の快適性への配慮	① 福祉施設・事業所の環境について、利用者の快適性に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 23 福祉施設的环境は清潔で、適温と明るい雰囲気が保たれている。 <input checked="" type="checkbox"/> 24 利用者にとって快適で、くつろいで過ごせる環境づくりの工夫を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 25 環境について、利用者の意向等を把握する取組と改善の工夫を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 26 利用者の意向やこれまでの生活を尊重した過ごし方ができるように、居室の環境等に配慮し支援している。 	<p>○木材が至る所にふんだんに使われている内装で、日差しがたっぷり注がれ明るい雰囲気の環境でした。</p> <p>○各部屋の手前に玄関に相当する空間が設けられ、部屋を家と感じられる設計になっていました。</p> <p>○居室には家族の写真等、思い思いの装飾がみられ、くつろげられる雰囲気の中で過ごしていました。</p>
	3 生活支援	(1) 利用者の状況に応じた支援	① 入浴支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 27 利用者の心身の状況や意向を踏まえ、入浴形態や方法を検討・確認し、入浴支援（入浴介助、清拭、見守り、声かけ等）を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 28 安全・快適に入浴するための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 29 入浴の誘導や介助を行う際は、利用者の尊厳や感情（羞恥心）に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 30 入浴を拒否する利用者については、利用者の状況に合わせ対応を工夫している。 <input checked="" type="checkbox"/> 31 入浴方法等について利用者の心身の状況に合わせ、検討と見直しを行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 32 入浴の可否の判断基準を明確にし、入浴前に健康チェックを行い、必要に応じて清拭等に代えるなどの対応をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 33 心身の状況や感染症、意向等を踏まえて入浴順の配慮を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 34 利用者が自力で入浴できる場合でも、安全のための見守りを行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 35 利用者の心身の状況や意向に合わせた入浴形態・方法を実施するための浴槽、福祉用具等が用意されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 36 利用者の健康状態等、必要に応じて、入浴日以外の日でも、入浴あるいはシャワー浴等ができる。 <input type="checkbox"/> 37 利用者の意向に応じて、入浴日を変更したり、入浴日以外の日でも、入浴あるいはシャワー浴等ができる。 	<p>○利用者のお大半が歩行困難なため、機械浴の対応が多く、職員は週2回の入浴を利用者の体調や希望を考慮して計画的に行っていました。</p> <p>○介護手順書に基づき安全に配慮していました。体調等の状況により順番や清拭等への変更はありました。</p> <p>○入浴のための装置は、最新のシャワートロリーをはじめとし十分に整っていました。</p> <p>○入浴を拒まれる利用者には、朝から言葉がけの工夫を行い、職員間で連携して無理の無いように促していました。</p> <p>○入浴は安全確保により行われていますが、利用者のヒヤリングにより、回数が増えて、入浴時間が長くゆっくりでき、楽しみな時間にしたい意向がありました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
			② 排せつの支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 38 利用者の心身の状況や意向を踏まえ、排せつのための支援、配慮や工夫がなされている。 <input checked="" type="checkbox"/> 39 自然な排せつを促すための取組や配慮を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 40 トイレは、安全で快適に使用できるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 41 排せつの介助を行う際には、利用者の尊厳や感情（羞恥心）に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 42 排せつの介助を行う際には、介助を安全に実施するための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 43 排せつの自立のための働きかけをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 44 必要に応じ、尿や便を観察し、健康状態の確認を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 45 支援方法等について利用者の心身の状況に合わせて検討と見直しを行っている。 <input type="checkbox"/> 46 尿意・便意の訴えやおむつ交換の要望に対して、できる限り早く対応できるようにしている。	<p>○おむつ対応の利用者でも、安全を確保しつつ、トイレに腰かけてもらい排尿、排便を促し、必要に応じて職員2人で介助しています。</p> <p>○個々の介護手順書に基づき、尊厳や羞恥心に配慮しながら対応しています。</p> <p>○健康状態確認のため、尿や便を観察して、必要に応じて看護師と連携しています。</p> <p>○排泄の介助時は、皮膚の観察とともに、清潔保持と褥瘡予防に努めています。</p> <p>○利用者の尿意や便意の訴えには、できる限り早く対応できるように努めていますが、その時の人員体制で待たせてしまうことも利用者からの聞き取りでありました。</p>
			③ 移動支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 47 利用者の心身の状況、意向を踏まえ、できるだけ自力で移動できるよう支援を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 48 移動の自立に向けた働きかけをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 49 利用者の心身の状況に適した福祉機器や福祉用具が利用されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 50 安全に移動の介助を実施するための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 51 介助方法等について利用者の心身の状況に合わせて検討と見直しを行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 52 利用者が移動しやすい環境を整えている。 <input type="checkbox"/> 53 移動に介助が必要な利用者が移動を希望した際に、できる限り早く対応できるようにしている。	<p>○自力の移動に向けて、安全に配慮しながらの見守りや、離床センサーやカメラを有効利用をしていました。</p> <p>○やさしい介護推進委員会が中心となって職員が腰痛予防等負担にならないためと、利用者の体への負担が少ない移乗方法や福祉機器を取り入れていました。（北欧式トランスファー）</p> <p>○販売店が施設を訪問して、利用者が自分で靴を選択し、購入できる機会があります。</p> <p>○廊下等動線には物を置かないよう、整理整頓に注意していました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
		(2) 食生活	① 食事をおいしく食べられるよう工夫している。	b)	<p>■ 54 食事をおいしく、楽しく食べられるよう献立や提供方法を工夫している。</p> <p>■ 55 食事の環境と雰囲気づくりに配慮している。</p> <p>■ 56 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。</p> <p>□ 57 食事を選択できるよう工夫している。</p>	<p>○献立表は掲示板で事前に行うことができ、季節に合わせた特別メニュー（郷土食）がありました。</p> <p>○希望で自室、ホールでテーブルを囲んだり、並んで会話やテレビ視聴を楽しみながら、衛生管理の行き届いた食事ができていました。</p> <p>○介護度が高い利用者が多いため、現在、選択食は行っていません。</p>
			② 食事の提供、支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	a)	<p>■ 58 利用者の心身の状況、嚥下能力や栄養面に配慮した食事づくりと提供方法を工夫している。</p> <p>■ 59 利用者の食事のペースと心身の負担に配慮している。</p> <p>■ 60 利用者の心身の状況を適切に把握し、自分でできることは自分で行えるよう支援している。</p> <p>■ 61 経口での食事摂取を継続するための取組を行っている。</p> <p>■ 62 誤嚥、窒息など食事中の事故発生の対応方法を確立し、日頃から確認、徹底している。</p> <p>■ 63 食事提供、支援・介助方法等について利用者の心身の状況に合わせ、検討と見直しを行っている。</p> <p>■ 64 食事、水分の摂取量を把握し、食事への配慮、水分補給を行っている。</p> <p>■ 65 利用者一人ひとりの栄養状態を把握し、栄養ケア計画を作成し、それに基づく栄養ケアマネジメントを実施している。</p>	<p>○経口摂取ができるように、食品の形状が6段階（常食、刻み、極刻み、トロ刻み、ペースト、ソフト）あり細やかに対応し、ソフト食は形がわかるように調理してあります。</p> <p>○クックチルの導入により、常に温かい食事が提供されています。</p> <p>○リハビリスタッフと連携して、介護度の高い利用者の食器の位置や体位を考慮し、自力摂取に取り組んでいます。食事中の見守り、見回りを万全にし、有事に備え看護師との連携をしています。</p> <p>○個々のリスクに基づいた栄養計画書から、わかりやすく写真入りの介護手順書が作成されていました。リスクや水分量の把握、排泄プランとの連動も合わせて年4回の見直しが行われていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
			③ 利用者の状況に応じた口腔ケアを行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 利用者が口腔機能の保持・改善に主体的に取り組むための支援を行っている。 ■ 67 職員に対して、口腔ケアに関する研修を実施している。 ■ 68 歯科医師、歯科衛生士の助言・指導を受けて、口腔状態及び咀嚼嚥下機能の定期的なチェックを行っている。 ■ 69 利用者の口腔清掃の自立の程度を把握し、一人ひとりに応じた口腔ケアの計画を作成し、実施と評価・見直しを行っている。 ■ 70 口腔機能を保持・改善するための取組を行っている。 ■ 71 食後や就寝前に、利用者の状況に応じた口腔ケア及び口腔内のチェックが実施されている。 	<p>○歯磨き等が自主的にできるよう、各部屋に洗口スペースが設置されていました。</p> <p>○年1回職員の口腔ケア研修会が計画されています。</p> <p>○月に2回、歯科医、衛生士の定期的なチェックが行われ、必要時、嚥下状況の把握をしています。</p> <p>○口腔ケアは歯科疾患の予防にとどまらず、肺炎や認知機能の低下を予防し、生活機能の低下を抑制するなど重要なので継続を望みます。</p>
		(3) 褥瘡発生予防・ケア	① 褥瘡の発生予防・ケアを行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 72 褥瘡対策のための指針を整備し、褥瘡の予防についての標準的な実施方法を確立し取組んでいる。 ■ 73 標準的な実施方法について職員に周知徹底するための方策を講じている。 ■ 74 褥瘡予防対策の関係職員が連携して取組んでいる。 ■ 75 褥瘡発生後の治癒に向けたケアが行われている。 ■ 76 褥瘡ケアの最新の情報を収集し、日常のケアに取り入れている。 ■ 77 褥瘡を食事面から予防するために、利用者一人ひとりの食事の摂取状況の確認、栄養管理を行っている。 	<p>○褥瘡委員会にて多職種（看護師等）で情報を共有していました。隣接の病院よりリハビリスタッフの指導と皮膚科の往診がそれぞれ月に1回あります。ポジショニングの相談や指導を受けていました。</p> <p>○日常生活の中で入浴時、排泄時皮膚の観察を怠らないように心がけ、除圧マットを含めた早めの対応をして、予防に努めていました。</p> <p>○褥瘡予防には栄養管理が大切になるので、個々の食事摂取状況の確認を行い、栄養士と連携して食事面からの予防をしていました。</p>
		(4) 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養	① 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養を実施するための体制を確立し、取組を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 78 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養の実施についての考え方（方針）と管理者の責任が明確であり、実施手順や個別の計画が策定されている。 ■ 79 喀痰吸引・経管栄養は、医師の指示にもとづく適切かつ安全な方法により行っている。 ■ 80 医師や看護師の指導・助言のもと安全管理体制が構築されている。 □ 81 介護職員等の喀痰吸引・経管栄養に関する職員研修や職員の個別指導等を定期的に行っている。 □ 82 介護職員等の喀痰吸引・経管栄養の研修の機会を確保し、実施体制の充実・強化をはかっている。 	<p>○喀痰、吸引委員会があり多職種（看護師等）との情報の共有できる体制はとれています。</p> <p>○今現在、該当する利用者はいませんでした。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
		(5) 機能訓練、介護予防	① 利用者の心身の状況に合わせ機能訓練や介護予防活動を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 83 利用者が生活の維持や介護予防に主体的に取り組むための支援を行っている。 ■ 84 利用者の状況に応じて、機能訓練や介護予防活動について、専門職の助言・指導を受けている。 ■ 85 日々の生活動作の中で、意図的な機能訓練や介護予防活動を行っている。 ■ 86 一人ひとりに応じた機能訓練や介護予防活動を計画的に行い、評価・見直しをしている。 ■ 87 判断能力の低下や認知症の症状の変化を早期発見し、医師・医療機関との連携など必要な対応を行っている。 	<p>○利用者が現在持っている機能の維持と心身機能の低下を予防する内容をケアプランに反映させ、多職種で評価見直しを行っています。</p> <p>○必要な利用者には、定期的に関係職の専門職の助言・指導を受けて機能訓練等を行っていました。</p> <p>○自らリビングから遠い端の部屋を選択し、車椅子自乗の移動距離を長くして、リハビリを楽しんでいる利用者も見られました。</p>
		(6) 認知症ケア	① 認知症の状態に配慮したケアを行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 利用者一人ひとりの日常生活能力や機能、生活歴について適切にアセスメントを行っている。 ■ 89 あらゆる場面で、職員等は利用者に関心し、支持的、受容的な関わり・態度を重視した援助を行っている。 ■ 90 行動・心理症状（BPSD）がある利用者には、一定期間の観察と記録を行い、症状の改善に向けたケアや生活上の配慮を行っている。 ■ 91 職員に対して、認知症の医療・ケア等について最新の知識・情報を得られるよう研修を実施している。 ■ 92 認知症の利用者が安心して落ち着ける環境づくりの工夫を行っている。 ■ 93 利用者一人ひとりの症状に合わせ、個人あるいはグループで継続的に活動できるよう工夫している。 ■ 94 医師及び看護師等の関係職員との連携のもと、行動・心理症状（BPSD）について分析を行い、支援内容を検討している。 	<p>○法人として令和4年から、認知症ケアセンター方式をアセスメント方式として推奨し、当施設も同年の新規利用者からアセスメントに取り入れています。</p> <p>○計画的に認知症実践者研修を受講し、認知症を理解し質の高い支援を提供できるように職員教育を行っています。</p> <p>○認知症センター方式を活用し利用者個々の介護手順書に反映させ、実践を評価・情報共有しています。</p> <p>○1日のメリハリづけや季節感が感じられるような環境のなかで、日々の利用者支援を振り返って安全性等に配慮し、情緒豊かに尊厳を基本とした支援を心掛けていますが、利用者のヒヤリングにて職員採用配置で時間的・人的余裕が無い中、職員が忙しく利用者が遠慮している等の話を伺いました。認知症ケアを重視した支援の実践・継続に今後も期待いたします。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
		(7) 急変時の対応	① 利用者の体調変化時に、迅速に対応するための手順を確立し、取組を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 95 利用者の体調変化に気づいた場合の対応手順、医師・医療機関との連携体制を確立し、取り組んでいる。 ■ 96 日々の利用者の健康確認と健康状態の記録を行っている。 ■ 97 利用者の体調変化や異変の兆候に早く気づくための工夫をしている。 ■ 98 職員に対して、高齢者の健康管理や病気、薬の効果や副作用等に関する研修を実施している。 ■ 99 体調変化時の対応について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。 ■ 100 利用者の状況に応じて、職員が適切に服薬管理または服薬確認をしている。 	<p>○緊急時対応マニュアルがあり、1人1人のわずかな体調変化や異変の兆候に早く気付けるように、日々の健康チェックを行っていました。</p> <p>○看護師が中心となり、介護職と連携をはかり、利用者の体調変化に迅速に対応し、隣接している協力医療機関との連携体制もあります。</p> <p>○高齢者の病気や薬の副作用等について、日頃の看護師との連携や、研修により把握ができていました。</p>
		(8) 終末期の対応	① 利用者が終末期を迎えた場合の対応の手順を確立し、取組を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 101 利用者が終末期を迎えた場合の対応について方針と手順が明らかになっている。 ■ 102 医師・医療機関等との必要な連携体制を確立している。 ■ 103 利用者及び家族に終末期を迎えた場合の意向の確認と福祉施設・事業所での対応・ケアについて説明し、対応している。 ■ 104 職員に対して、終末期のケアに関する研修を実施している。 ■ 105 終末期のケアに携わる職員や利用者の担当職員等に対して、精神的なケアを実施している。 ■ 106 利用者・家族から希望があった場合に、利用者の状況に応じてできる限り施設での終末期のケアを行う体制を整え取組を行っている。 	<p>○協力医療機関が隣接していることで連携が取れていました。</p> <p>○施設での看取りについての考え方、具体的な介護の方法や手順について、また終末期のケア計画書の作成についてもわかりやすくマニュアル化されていました。</p> <p>○家族の付き添いで要望があれば、食事や宿泊等の対応をし、全職種協働で終末期の介護をすることを事業計画に明記してありました。</p> <p>○介護職員への配慮として、家族からの感謝の言葉等を、看護師から伝える配慮をし、精神的ケアにつなげていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
	4 家族等との連携	(1) 家族等との連携	① 利用者の家族等との連携と支援を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 107 家族に対し、定期的及び変化があった時に利用者の状況を報告している。 ■ 108 利用者の状況など報告すべき事項は、必ず家族に伝わるよう伝達方法を工夫している。 ■ 109 家族に対し、サービスの説明をしたり、要望を聞く機会を設けている。 ■ 110 家族との相談を定期的及び必要時に行っている。また、その内容を記録している。 ■ 111 利用者と家族がつながりをもてるよう、取組や工夫をしている。 	<p>○コロナ禍で面会できない為、1ヶ月毎で利用者の日常の姿を写真にし、3ヶ月毎に担当職員がコメントを載せて家族に送付して様子を知らせています</p> <p>○6ヶ月ごとのケアプランの見直しには、必ず家族も同席して要望や生活の意向等を聞く機会にしていました。</p> <p>○あさぎり新聞の発行や夏祭りへの家族の参加の呼びかけもありました。</p> <p>○家族が多忙であったり、遠方在住の場合、連絡をこまめにし情報を伝える対応をしていました。</p>